

営業状況等統計調査

(平成29年度財務諸表等より)

— 平成30年度 —

< 解 説 編 >



日本
旅館
協会

一般社団法人 日本旅館協会
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

平成 30 年度 営業状況等統計調査

目 次

<解説編>

会員数と回答旅館ホテルの内訳.....	2
はじめに	3
 I.基本調査.....	5
1. 回答旅館ホテルの規模.....	5
2. 貸借対照表.....	6
3. 売上高構成比	7
4. 宿泊客 1 人当り売上高	8
5. 定員稼働率・客室稼働率.....	10
6. 売上効率	11
7. 原価効率	12
8. 経費率	13
9. 利益率	15
10. 就業者	16
11. 従業員効率.....	17
12. 建物面積効率.....	18
13. 資本効率・資金回収年数.....	19
 II.全件調査.....	20
1. 集客の方法.....	20
2. ホームページ	21
3. 外国人宿泊客	22
4. インターネット対応	23
5. クレジットカード&電子決済	24
 むすび.....	25
調査票.....	26

一般社団法人 日本旅館協会 (平成30年度4月1日現在)

地域(支部連合会)	会 員 数	区 分
北 海 道	198	北海道
東 北	277	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関 東	459	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
北陸信越	473	新潟県、富山県、石川県、長野県
中 部	327	福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
関 西	362	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中 国	154	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四 国	133	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九 州	249	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
合 計	2,632	



●旅館営業とは、宿泊料金に夕食・朝食を含む。

大旅館……客室数 100室以上

中旅館……客室数 31室以上99室以下

小旅館……客室数 30室以下

●ホテル営業とは、宿泊をルームチャージで販売するところ。

<平成30年度 営業状況等統計調査回答旅館ホテルの内訳>

(単位:軒、%)

	有効回答数				黒字旅館の数	黒 字 比 率	総回答数
	大 旅 館	中 旅 館	小 旅 館				
旅 館	198	41	97	60	126	63.6	231
大旅館	41	41	-	-	30	73.2	44
中旅館	97	-	97	-	66	68.0	111
小旅館	60	-	-	60	30	50.0	76
北海道	18	10	6	2	14	77.8	20
東北	26	6	16	4	15	57.7	31
関東	25	4	13	8	19	76.0	28
北陸信越	32	2	20	10	17	53.1	42
中部	28	6	14	8	16	57.1	34
関西	36	4	15	17	27	75.0	40
中国	8	3	2	3	3	37.5	10
四国	8	4	1	3	6	75.0	9
九州	17	2	10	5	9	52.9	17
黒字旅館	126	30	66	30	126	100.0	158
赤字旅館	72	11	31	30	0	0.0	73
ホ テ ル	27	5	15	7	21	77.8	32

(注) 損益計算が十分な回答を有効とした。全軒調査は有効回答に加え損益計算が不十分な回答も対象としている。

くはじめに

この調査は当協会のすべての会員に調査票を送付して実施しています。本年は263軒の会員から回答が寄せられました。ご協力頂いた会員各位にはこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。

旅館ホテルは観光や業務にともなう旅行を支える社会基盤です。また、近年急激な勢いで増加する訪日外国人客を受け入れています。単に宿泊機能を提供するにとどまらず、「おもてなし」に代表されるわが国の文化を来訪者に提供しています。加えて多くの会員はわが国の伝統文化を維持発展させる役割を自ら担っています。

この調査は当協会会員の経営を分析することで、会員の経営基盤の安定に寄与すべく実施するものです。

今般、平成30年度の調査分析がまとまりましたので、当協会のホームページに上程します。

(1) 対象年度を振り返る

平成29年は訪日外国人旅行客が2,869万人と5年連続で過去最高となった。

・国籍別の訪日客数をみると、

中国 736万人(前年比+15.4%)

韓国 714万人(+40.3%)

台湾 456万人(+9.5%)

香港 223万人(+21.3%)

米国 137万人(+10.6%)

タイ 98万人(+9.5%)

豪州 49万人(+11.2%) 出典JNTO(日本政府観光局)

となっている。

観光白書によると、国内の宿泊旅行延べ人数は、4億9,820万人(+1.2%)となっており、日本人及び訪日外国人旅行者による日本国内における旅行消費額は、26.7兆円(+3.6%)となった。

訪日外国人の消費総額は年4兆4,162億円となり、

うち宿泊費は1兆2,451億円となっている。訪日外国人の1人当り消費総額は153,921円で中国人は230,382円、韓国人は71,795円となっている。出典:観光庁

(2) 調査の概要 〈表1、表2、図1〉

この調査は「Ⅰ.基本調査」と「Ⅱ.全件調査」の2部構成となっている。基本調査は、損益計算や客室数、利用人員等の記述が十分な回答(有効回答)に絞って集計している。一方、全件調査は回答した旅館ホテルのすべてを対象として集計している。

また、規模別集計は客室数を基準として、

・大旅館:100室以上

・中旅館:31室以上99室以下

・小旅館:30室以下

さらに、経常利益を基準に「黒字旅館」「赤字旅館」としている。

ホテルについては回答軒数が限られることから内訳分析をおこなっていない。

(3) 回答率

今年度の調査票発送部数は2,632軒、回答は旅館231軒、ホテル32軒となっている。うち有効回答は旅館198軒、ホテル27軒となっている。2,632軒に対する有効回答率は8.5%となっている。

規模別の有効回答数をみると、

・大旅館 41軒(▲4軒、▲8.9%)

・中旅館 97軒(▲19軒、▲16.4%)

・小旅館 60軒(▲33軒、▲35.5%)

(ホテル)回答は27軒で2軒の増加であった。

図1 黒字の割合 (単位: %)

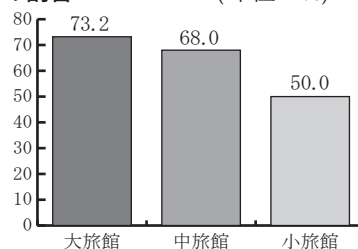


表2 黒字旅館の推移 (割合) (単位: %)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
平成 24 年	79.2	56.6	51.2	59.3	68.2
25 年	72.0	69.7	58.2	66.5	81.0
26 年	80.0	57.7	56.6	61.9	69.6
27 年	80.0	76.4	66.7	73.6	86.2
28 年	75.6	71.6	63.4	69.3	68.0
29 年	73.2	68.0	50.0	63.6	77.8

表1 有効回答旅館の推移 (単位: 軒)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
平成 24 年	48	106	82	236	22
25 年	50	122	79	251	21
26 年	50	111	83	244	23
27 年	35	123	84	242	29
28 年	45	116	93	254	25
29 年	41	97	60	198	27

(4) 黒字・赤字の割合

経常利益で黒字・赤字を区分している。黒字旅館の割合は2年連続して低下した。特に小旅館が50.0%にとどまる。ホテルは前年を上回る。また、黒字の割合は旅館よりもホテルが高い。

- ・大旅館 73.2% (▲2.4p、▲3.2%)
- ・中旅館 68.0% (▲3.6p、▲5.0%)
- ・小旅館 50.0% (▲13.4p、▲21.1%)

(ホテル) 黒字は77.8%で前年を9.8p上回る。

(5) 今年度の主な変更点

- ・当協会では旅館ホテル「統一会計基準」の導入を推奨しており、本年度の調査票をこの会計基準に準拠する形に変更した。主な変更箇所は以下のとおり。
- ・売上高は、日常の営業集計より宿泊売上および日帰り売上を設問するとともに、決算報告書から宿泊売上、飲物売上、売店売上、その他売上を設問した。
- ・客室稼働率は、これまで「客室数×営業日数」を計算し分母としてきたが、「販売可能客室数」の設問を設けこれを分母として算出した。
- ・原価関連の設問は変更なし。
- ・経費の大分類を、人件費、営業費、業務費、管理費、減価償却費とした。
- ・経費の内訳は設問していない。
- ・外国人の国籍を見直し豪州を新設した。
- ・HP対応言語にスペイン語を追加した。
- ・スマホ関連項目を追加した。
- ・キャッシュレス決済の内容を充実させた。

(6) 解説編の表記方法について

- ・この調査は平成29年度の決算書を対象に平成30年度に実施している。各表の最新年度は「29年」と表記している。
- ・前年との比較:例えば「大旅館 20,000円 (▲500円、▲2.4%)」と表記した場合、20,000円は今年度の集計結果であり、()内は前年度との比較を示す。
- ・数値が前年を上回るときは「+」、下回るときは「▲」を付す。
- ・%同士の引き算(例えば、14.4%－14.7%)の結果を%で表記すると100分率と混同があるので、単位を

ポイントとし「p」と表記する。

- ・本文中の数値は四捨五入のうえ表記する。前年との増減は表記より求めるが、変化率は四捨五入する前の元の数値より算出する。
- ・通常の決算書で「販売費及び一般管理費」と言われる経費を表3のとおり区分した。
- ・解説は旅館を中心におこない、ホテルについては行頭に(ホテル)と明記している。

(7) 資料編について

資料編は集計結果のみを掲載している。留意点は次のとおり。

- ・調査は自主回答であるため一部に無回答がある。そこで項目ごとに集計対象を見直す処理(DK処理)をおこなっている。
- ・旅館平均、規模別、地域別、黒字・赤字別に集計しているが、その場合も以下のようにその都度計算する対象を見直している。
$$\text{旅館の原価率} = \text{旅館の原価} \div \text{旅館の売上}$$
$$\text{黒字の原価率} = \text{黒字の原価} \div \text{黒字の売上}$$
$$\text{赤字の原価率} = \text{赤字の原価} \div \text{赤字の売上}$$
- ・回答された調査票のうち売上等内訳を記載しないまとめ書きについては按分している。
- ・さらに、異常値といえる過大あるいは過小の数値については、その項目を不明としている。
- ・また回答が2軒以下の場合は、算出された数値はブランクとしている。例えば、九州の大旅館は回答軒数が少ないために表示しないが、九州全体の平均には含めている。

表3 経費区分

人 件 費	役員報酬、給料、退職金、法定福利費、厚生費、外注・委託費、求人費、教育研修費、賞与引当金繰入
営 業 費	販売促進費、営業所費、営業交通費、接待交際費、広告宣伝費、販売手数料
業 務 費	サービス費(リネン、客室消耗品費、アメニティ)、備品消耗品費(食器、厨房用品、装飾費)、修繕費、保守管理費、衛生費、車両費、水道光熱費、通信運搬費
管 理 費	リース料、会費・組合費、地代・家賃、顧問料・調査費、保険料、租税公課、事務用消耗品費、雑費
減 価 償 却 費	建物、構築物、機械等の減価償却費

I. 基本調査

基本調査は旅館ホテルの経営状況を分析する。

1. 回答旅館ホテルの規模 〈表 4、表 5〉

(1) 総客室数・収容定員

1軒当り客室数は67室、収容定員298人となっている。規模別では、

- ・大旅館 166室 (+17室、+11.1%)
- ・中旅館 56室 (▲0室、▲1.2%)
- ・小旅館 19室 (▲1室、▲2.5%)

収容定員は、

- ・大旅館 716人 (+59人、+8.9%)
- ・中旅館 255人 (+1人、+0.4%)
- ・小旅館 81人 (▲6人、▲6.9%)

と小旅館でマイナスとなっている。

(ホテル)客室数68部屋定員141名となっている。

(2) 1室当り定員

$$1 \text{ 室当り定員} = \text{収容定員} \div \text{総客室数}$$

1室当り定員は、和室を中心とする旅館で多く、洋室が中心のホテルは少ない。旅館の1室当り定員は平均で4.4人となっており、規模別では中旅館が4.6人となっている。

(ホテル)1室当り定員は2.1人となっている。

(3) 総売上高

今年度の1軒当り総売上高は、

- ・大旅館 22億5,303万円
(+3億6,201万円、+19.1%)
- ・中旅館 6億2,789万円
(+3,924万円、+6.7%)
- ・小旅館 19,154万円
(▲3,577万円、▲15.7%)

となっている。小旅館が10%以上の減少となっている。

黒字・赤字別では、売上高に顕著な差がある。

- ・大旅館 黒字26億2,434万円
赤字12億4,038万円
- ・中旅館 黒字6億9,914万円
赤字4億7,620万円
- ・小旅館 黒字2億4,130万円
赤字1億4,178万円

(ホテル)総売上高は4億2,585万円と大幅に回復した。

(4) 宿泊人員

年間宿泊人員は、

- ・大旅館 11万1,841人 (+20,075人、+21.9%)
- ・中旅館 3万3,646人 (+693人、+2.1%)
- ・小旅館 9,375人 (▲1,484人、▲13.7%)

となっている。前年との比較では、大旅館と中旅館でプラス、小旅館でマイナスになっている。

(ホテル)宿泊人員は2万6,375人となっている。

表4 1軒当り総客室数・収容定員・1室当り定員

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
	平成24年	168	60	19	68	71
総客室数(室)	25年	186	59	18	71	65
	26年	158	55	18	64	99
	27年	155	58	19	59	88
	28年	149	56	20	59	64
	29年	166	56	19	67	68
収容定員(人)	平成24年	723	284	83	303	118
	25年	775	273	74	310	122
	26年	687	242	76	277	178
	27年	656	265	79	257	143
	28年	657	254	87	264	98
1室当り定員(人)	29年	716	255	81	298	141
	平成24年	4.3	4.7	4.3	4.5	1.6
	25年	4.2	4.6	4.2	4.3	1.9
	26年	4.4	4.4	4.2	4.4	1.8
	27年	4.2	4.5	4.2	4.4	1.6
	28年	4.4	4.5	4.4	4.5	1.5
	29年	4.3	4.6	4.2	4.4	2.1

表5 総売上高、年間宿泊人員

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
	平成24年	188,575	64,855	17,196	73,459	41,287
総売上高(万円)	25年	206,962	65,962	19,573	79,449	23,922
	26年	184,817	60,218	19,413	71,870	76,481
	27年	212,010	69,157	20,071	72,780	72,516
	28年	189,102	58,865	22,731	68,709	23,133
	29年	225,303	62,789	19,154	83,218	42,585
年間宿泊人員(人)	平成24年	95,103	33,950	8,181	37,434	19,792
	25年	104,305	34,373	7,937	39,983	21,734
	26年	94,992	30,415	8,966	36,352	35,068
	27年	94,275	34,704	9,803	34,676	29,959
	28年	91,766	32,953	10,859	35,283	19,948
	29年	111,841	33,646	9,375	42,483	26,375

2. 貸借対照表〈表6、表7、表8〉

(1) 資産の状況

1軒当り総資産は大旅館で大幅な増加、小旅館で減少となった。

- ・大旅館 41億9,353万円
(+12億3,065万円、+41.5%)
 - ・中旅館 8億6,147万円 (+245万円、+0.3%)
 - ・小旅館 2億7,187万円 (▲3,014万円、▲10.0%)
- (ホテル) 総資産は7億8,039万円であった。

①流動資産

流動資産は現預金や売掛金など流動性の高い資産である。総資産に占める割合は23.0%と前年より増加している。大旅館の増加が顕著であった。
(ホテル) 流動資産は20.1%と旅館より低い。

②固定資産

固定資産は総資産の77.0%を占めるが、前年より割合は減少した。
(ホテル) 79.8%で前年より低下した。

(2) 負債・資本の状況

①流動負債

流動負債は、1年以内に返済予定の借入金、支払予定の買掛金や税金などであり、総資産の17.8%を占める。流動資産(23.0%)が流動負債(17.8%)を上回っている。すなわち手元資金が支払い予定を上回っていることになる。
(ホテル) 流動資産20.1%に対して流動負債18.3%となっている。ホテルも流動資産が上回る。

②長短借入金

長期借入金と短期借入金の合計は、総資産の65.2%で前年を11.8p下回る。特に大旅館が前年を大幅に下回った。長短借入金比率は中旅館が高い。
(ホテル) 長短借入金は前年より大幅な増加で90.5%となっている。

③自己資本比率

自己資本は資本金と剰余金からなる。その構成比は22.5%となっている。大旅館と小旅館が26.4%と高い。
(ホテル) 自己資本比率は▲1.4%と債務超過となる。

表6 1軒当り資産

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総資産額 (万円)	平成 24 年	350,180	128,010	37,830	143,818	120,998
	25 年	408,126	125,049	29,483	149,841	36,289
	26 年	283,044	88,420	26,652	108,992	207,953
	27 年	392,031	120,336	33,003	129,993	219,010
	28 年	296,288	85,902	30,201	101,287	57,157
	29 年	419,353	86,147	27,187	141,210	78,039
長短借入金合計 (万円)	平成 24 年	279,780	91,199	24,754	108,031	80,492
	25 年	252,004	80,257	22,463	95,357	27,302
	26 年	224,596	70,305	17,064	85,129	52,095
	27 年	250,610	75,457	21,940	82,641	66,109
	28 年	236,663	65,767	19,785	77,989	38,362
	29 年	264,438	61,773	15,830	92,120	70,639

表7 貸借対照表

(単位: %)

	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
流動資産	24.9	19.0	21.0	23.0	20.1
固定資産	75.1	80.9	78.7	77.0	79.8
繰延資産	0.0	0.1	0.3	0.1	0.2
資産の部合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
流動負債	16.9	20.0	17.2	17.8	18.3
(うち短期借入金)	9.7	8.4	8.0	9.2	9.9
固定負債	56.7	67.3	55.0	59.6	83.1
(うち長期借入金)	53.4	63.3	50.2	56.0	80.6
(長短借入金合計)	63.1	71.7	58.2	65.2	90.5
自己資本	26.4	12.7	26.4	22.5	▲ 1.4
負債・資本の合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表8 資産と借入金

(単位: %)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
流動資産	平成 24 年	18.5	16.4	20.3	17.8	10.5
	25 年	22.9	20.6	15.3	21.4	19.2
	26 年	20.0	17.3	21.4	19.1	21.6
	27 年	24.0	22.1	17.6	22.5	16.8
	28 年	18.7	16.2	21.0	18.0	16.5
	29 年	24.9	19.0	21.0	23.0	20.1
固定資産	平成 24 年	81.4	83.4	77.1	81.8	89.5
	25 年	76.7	78.8	84.4	78.0	80.7
	26 年	79.8	82.1	78.1	80.5	77.7
	27 年	75.8	77.6	81.8	77.2	83.2
	28 年	81.2	83.7	78.6	81.9	83.1
	29 年	75.1	80.9	78.7	77.0	79.8
長短借入金合計	平成 24 年	79.9	71.3	65.4	75.1	66.5
	25 年	61.7	64.2	76.2	63.6	75.2
	26 年	79.4	79.5	64.0	78.1	25.1
	27 年	63.9	62.7	66.5	63.6	30.2
	28 年	79.9	76.6	65.5	77.0	67.1
	29 年	63.1	71.7	58.2	65.2	90.5

3. 売上高構成比 〈図2、表9〉

売上高の内訳である「宿泊売上」「飲物売上」「売店売上」等の記述がない回答については、主に平均値から補足し推定している。

(1) 宿泊売上

総売上高に占める宿泊売上は74.5%で5年連続して増加している。館内での売上げが伸びない。小旅館ほど宿泊売上の占める割合が高い。

- ・大旅館 72.6% (+0.2p、+0.3%)
- ・中旅館 76.3% (▲0.2p、▲0.2%)
- ・小旅館 80.2% (+6.0p、+8.1%)

黒字・赤字別では、

- ・大旅館 黒字72.2% 赤字75.2%
- ・中旅館 黒字75.0% 赤字80.7%
- ・小旅館 黒字83.5% 赤字74.7%

大旅館と中旅館では黒字旅館が宿泊売上の比率が低い。赤字旅館に比べ宿泊以外の館内消費が多いと言える。一方で、小旅館では宿泊に特化しているところが黒字となっている。

(ホテル) ホテルでは宿泊売上は46.7%となっている。

(2) 飲物売上

これまで宿泊収入の飲料・冷蔵庫と日帰りの飲料収入を分けて設問してきたが、今年度より飲物売上としている。大旅館で低下傾向が顕著である。

- ・大旅館 4.8% (▲0.5p、▲8.5%)
- ・中旅館 6.1% (+1.0p、+20.1%)
- ・小旅館 5.3% (▲0.2p、▲3.4%)

黒字・赤字でみると、

- ・大旅館 黒字4.7% 赤字5.9%
- ・中旅館 黒字6.3% 赤字5.4%
- ・小旅館 黒字4.6% 赤字6.5%

大旅館と小旅館では赤字旅館の方が高くなっている。(ホテル) 4.2%と旅館より低い。

(3) 売店売上

売店売上の比率は長期的に低下している。規模が大きいほど売店売上の比率は高い。

- ・大旅館 5.6% (▲0.7p、▲11.8%)
- ・中旅館 4.2% (▲0.2p、▲4.8%)
- ・小旅館 3.5% (▲0.1p、▲2.3%)

黒字・赤字でみると、大旅館・小旅館では赤字旅館の方がやや高い傾向にある。

- ・大旅館 黒字5.4% 赤字6.7%
- ・中旅館 黒字4.2% 赤字4.2%
- ・小旅館 黒字3.2% 赤字4.1%

(ホテル) 2.2%と旅館より低い。

図2 売上構成比 (単位：%)

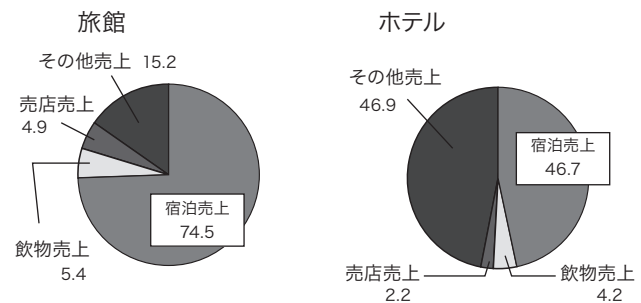


表9 売上高構成

(単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
宿泊売上	平成24年	65.5	68.5	63.3	66.5	28.4
	25年	67.1	68.6	72.1	68.1	47.2
	26年	70.5	68.2	67.2	69.3	33.0
	27年	73.8	71.6	68.6	72.2	32.8
	28年	72.4	76.5	74.2	74.2	46.7
	29年	72.6	76.3	80.2	74.5	46.7
飲物売上	平成24年	6.0	5.9	6.1	6.8	9.2
	25年	6.0	6.0	6.1	5.7	6.9
	26年	6.2	6.1	6.4	5.3	8.8
	27年	5.5	5.1	5.9	5.7	7.1
	28年	5.3	5.1	5.5	5.3	5.8
	29年	4.8	6.1	5.3	5.4	4.2
売店売上	平成24年	7.3	5.2	3.6	6.2	1.2
	25年	6.8	4.8	3.4	5.7	2.0
	26年	6.6	4.6	3.3	5.5	2.3
	27年	6.8	4.3	3.9	5.3	1.5
	28年	6.3	4.4	3.6	5.2	0.6
	29年	5.6	4.2	3.5	4.9	2.2
その他売上	平成24年	—	—	—	—	—
	25年	—	—	—	—	—
	26年	—	—	—	—	—
	27年	—	—	—	—	—
	28年	—	—	—	—	—
	29年	16.9	13.3	11.0	15.2	46.9

4. 宿泊客1人当り売上高〈図3、表10、表11、表12〉

宿泊客1人当り売上高は、売上高を宿泊客人員で割り算して客単価を求めている。日帰り単価は日帰り人員より求めている。

(1) 宿泊客1人当り総売上高

宿泊客1人当り売上高＝総売上高 ÷ 宿泊人員

各規模とも前年を上回る。小旅館がもっとも高い。

- ・大旅館 20,145円 (+436円、+2.2%)
- ・中旅館 18,662円 (+989円、+5.6%)
- ・小旅館 20,431円 (+201円、+1.0%)

黒字・赤字別でみると、各規模とも黒字旅館が高単価となっている。

- ・大旅館 黒字21,852円 赤字13,887円
- ・中旅館 黒字19,876円 赤字15,670円
- ・小旅館 黒字21,375円 赤字19,004円

(ホテル) 16,146円と旅館を下回る。

(2) 宿泊客1人当り宿泊売上

客1人当り宿泊料売上＝宿泊売上 ÷ 宿泊人員

客1人当り宿泊売上は、中旅館と小旅館で前年を上回るが、大旅館で前年を下回った。

- ・大旅館 14,635円 (▲284円、▲1.9%)
- ・中旅館 14,254円 (+592円、+4.3%)
- ・小旅館 16,390円 (+855円、+5.5%)

黒字・赤字別でみると、黒字旅館が高い。

- ・大旅館 黒字15,779円 赤字10,442円
- ・中旅館 黒字14,908円 赤字12,642円
- ・小旅館 黒字17,844円 赤字14,190円

(ホテル) 7,538円と旅館よりも大幅に低い。

(3) 宿泊客1人当り飲物売上

客1人当り飲物売上＝飲物売上 ÷ 宿泊人員

宿泊客1人当り飲物売上は1,047円となっている。今年度調査票変更のため前年との比較ができない。黒字・赤字別でみると、小旅館では赤字が高い。

- ・大旅館 黒字1,021円 赤字814円
- ・中旅館 黒字1,257円 赤字853円
- ・小旅館 黒字984円 赤字1,239円

(ホテル) 676円と旅館より低い。

図3 客1人当り総売上高の推移

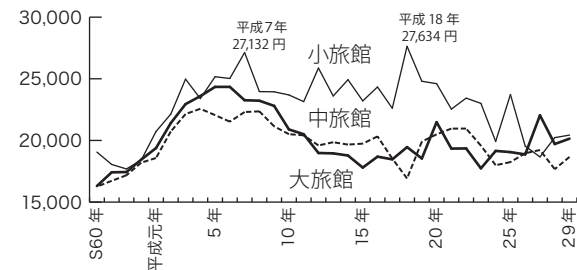


表10 宿泊客1人当り総売上高 (単位：円)

	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
平成24年	19,150	17,992	19,919	18,737	18,590
25年	19,054	18,245	23,726	19,008	10,038
26年	18,866	18,962	19,542	18,959	20,792
27年	22,036	19,223	18,664	20,274	22,519
28年	19,709	17,673	20,230	18,899	11,527
29年	20,145	18,662	20,431	19,589	16,146

表11 宿泊客一人当り売上高 (単位：円)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
宿 泊 売 上	平成24年	12,982	13,084	13,314	13,049	5,934
	25年	13,317	13,155	17,789	13,528	5,200
	26年	13,720	13,496	14,549	13,704	7,194
	27年	16,587	14,271	14,050	15,160	7,935
	28年	14,919	13,662	15,535	14,452	5,416
	29年	14,635	14,254	16,390	14,604	7,538
飲 物 売 上	平成24年	—	—	—	—	—
	25年	—	—	—	—	—
	26年	—	—	—	—	—
	27年	—	—	—	—	—
	28年	—	—	—	—	—
	29年	976	1,140	1,086	1,047	676
売 店 売 上	平成24年	1,443	999	755	1,210	249
	25年	1,341	912	849	1,131	223
	26年	1,282	912	716	1,094	491
	27年	1,529	851	797	1,112	363
	28年	1,293	785	758	1,016	69
	29年	1,119	778	719	960	358
そ の 他 売 上	平成24年	—	—	—	—	—
	25年	—	—	—	—	—
	26年	—	—	—	—	—
	27年	—	—	—	—	—
	28年	—	—	—	—	—
	29年	3,414	2,489	2,237	2,977	7,574

(4) 宿泊客1人当り売店売上

$$\text{客1人当り売店売上} = \text{売店売上高} \div \text{宿泊人員}$$

売店単価は長期的には低下傾向にあり、今年度千円の大台を下回った。大旅館の売店単価は高く規模格差が表れている。

- ・大旅館 1,119円 (▲174円、▲13.5%)
- ・中旅館 778円 (▲7円、▲0.9%)
- ・小旅館 719円 (▲39円、▲5.2%)

黒字・赤字別でみると、小旅館では赤字が高い。

- ・大旅館 黒字1,171円 赤字931円
- ・中旅館 黒字828円 赤字655円
- ・小旅館 黒字680円 赤字778円

(ホテル) 売店単価は358円と旅館より低い。

(5) 日帰り客1人当り売上

$$\text{日帰り客1人当り売上} = \frac{\text{日帰り売上}}{\text{日帰り人員}}$$

日帰り単価は各規模とも前年を下回った。

- ・大旅館 4,243円 (▲146円、▲3.3%)
- ・中旅館 5,254円 (▲200円、▲3.7%)
- ・小旅館 3,777円 (▲1,414円、▲27.2%)

黒字・赤字別でみると大旅館と中旅館では赤字が高く、小旅館ではその逆となっている。

- ・大旅館 黒字4,232円 赤字4,311円
- ・中旅館 黒字4,774円 赤字6,570円
- ・小旅館 黒字3,900円 赤字3,634円

(ホテル) 6,017円と旅館を上回る。

表12 日帰り客一人当り売上高 (単位：円)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
日 帰 り 単 価	平成24年	4,984	4,914	4,400	4,865	4,258
	25年	4,956	5,439	4,719	5,116	2,859
	26年	5,447	5,107	4,547	5,143	7,283
	27年	5,398	5,270	4,204	5,129	4,989
	28年	4,389	5,454	5,191	5,000	5,404
	29年	4,243	5,254	3,777	4,687	6,017

5. 定員稼働率・客室稼働率〈図4、表13、表14〉

旅館ホテル業の稼働率は定員と客室を基準とする。洋室に対して和室は1室当りの定員が多い。旅館では定員どおりに販売することは難しい。

(1) 定員稼働率

$$\text{定員稼働率} = \text{宿泊人員} \div (\text{収容定員} \times \text{営業日数}) \times 100$$

大旅館の定員稼働率は平成23年を底に持ち直している。中旅館も堅調に推移している。小旅館は2年連続して前年を下回る。したがって規模格差が顕著になりつつある。

- ・大旅館 43.5% (+4.7p、+12.1%)
- ・中旅館 37.0% (+0.9p、+2.3%)
- ・小旅館 33.1% (▲2.6p、▲7.3%)

黒字旅館は高稼働で、赤字旅館は低稼働である。

- ・大旅館 黒字44.1% 赤字41.4%
- ・中旅館 黒字38.2% 赤字34.3%
- ・小旅館 黒字38.8% 赤字27.1%

(ホテル) 定員稼働率は51.7%で旅館より高稼働となっている。

(2) 客室稼働率

$$\text{客室稼働率} = \text{利用客室数} \div (\text{客室数} \times \text{営業日数}) \times 100$$

規模別でみると大旅館が高く、小旅館が低い。なお、本年度より分母を上記の通り改めている。

- ・大旅館 73.8% (+8.5p、+13.0%)
- ・中旅館 63.0% (+1.9p、+3.1%)
- ・小旅館 55.0% (+0.8p、+1.5%)

黒字・赤字でみると、黒字旅館が顕著に高い。

- ・大旅館 黒字75.1% 赤字68.7%
- ・中旅館 黒字66.4% 赤字55.4%
- ・小旅館 黒字65.6% 赤字43.1%

(ホテル) 客室稼働率は72.8%で旅館より高稼働となっている。

(3) 地域別稼働率

定員稼働率は、中部と九州で高い。小旅館は複数の地域で定員稼働率が20%台にとどまる。小旅館で高稼働なのは関西の45.1%となっている。

客室稼働率が最も高いのは北海道と中部であった。大旅館が牽引している。中部の大旅館は客室稼働率が82.0%となっている。

定員稼働率と客室稼働率の高いところが一致しないのは、1室定員や1室利用人員が異なることによる。

図4 定員稼働率の推移 (%)

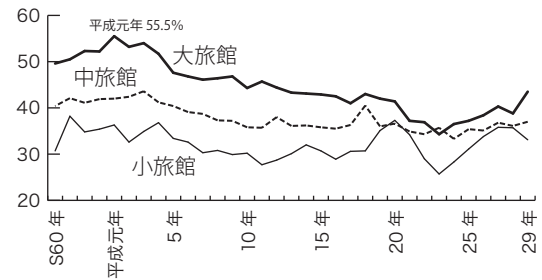


表13 定員稼働率・客室稼働率

(単位: 円)

年度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
定員稼働率	平成24年	36.5	33.3	28.3	34.4
	25年	37.2	35.4	31.1	36.0
	26年	38.4	35.1	33.8	36.6
	27年	40.3	36.8	35.8	38.0
	28年	38.8	36.1	35.7	37.3
	29年	43.5	37.0	33.1	40.2
客室稼働率	平成24年	59.4	59.4	49.1	58.5
	25年	56.8	60.4	48.5	57.8
	26年	64.4	59.0	54.6	61.6
	27年	65.5	62.9	59.1	63.6
	28年	65.3	61.1	54.2	62.4
	29年	73.8	63.0	55.0	68.0
1室当り宿泊利用人員	平成24年	2.67	2.67	2.40	2.65
	25年	2.81	2.66	2.66	2.73
	26年	2.62	2.64	2.68	2.63
	27年	2.74	3.19	3.37	3.01
	28年	2.60	2.71	2.86	2.66
	29年	2.58	2.74	2.64	2.65

表14 地域別稼働率

(単位: 円)

地域	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館
定員稼働率	北海道	40.5	42.2	-
	東北	34.3	30.7	22.3
	関東	45.4	35.0	31.4
	北陸信越	-	34.7	26.5
	中部	54.3	44.6	32.0
	関西	45.3	41.0	45.1
	中国	40.0	-	20.2
	四国	40.0	-	32.0
	九州	-	34.9	36.1
客室稼働率	北海道	77.3	65.2	-
	東北	59.9	60.1	40.6
	関東	79.6	65.9	48.9
	北陸信越	-	59.8	46.7
	中部	82.0	65.0	53.9
	関西	67.3	68.4	70.0
	中国	72.5	-	22.0
	四国	66.8	-	54.2
	九州	-	62.9	49.9

6. 売上効率

(1) 1室当り売上高 〈図5、表15〉

$$1 \text{ 室当り売上高} = \text{総売上高} \div \text{客室数}$$

宿泊業にとって客室は最大の営業基盤である。したがって客室1部屋当りの年間売上げは重要指標である。旅館は1,236万円と前年より77万円上回る。大旅館と中旅館で増加だが、小旅館は減少となった。

- ・大旅館 1,358万円 (+92万円、+7.2%)
- ・中旅館 1,131万円 (+83万円、+7.9%)
- ・小旅館 1,005万円 (▲158万円、▲13.6%)

黒字・赤字の別でみると、各規模とも黒字の売上高が多い。その差は顕著となっている。

- ・大旅館 黒字1,476万円 赤字929万円
- ・中旅館 黒字1,251万円 赤字870万円
- ・小旅館 黒字1,259万円 赤字748万円

(ホテル) 1室売上高は627万円と旅館より低くなっている。

(2) 建物面積1㎡当り売上高

$$\text{建物面積1㎡当り売上高} = \frac{\text{総売上高}}{\text{建物延べ面積}}$$

建物延べ面積当り売上高は、営業形態の違いを排除して営業効率を分析するのに適した指標である。ただし、建物延べ面積の回答は旅館全体で198軒に対して161軒と有効回答の81.3%にとどまる。規模別では大旅館と小旅館がおおよそ9万円となっている。一方中旅館はやや低い。

- ・大旅館 8.9万円 (+0.5万円、+6.5%)
- ・中旅館 7.9万円 (+0.4万円、+5.2%)
- ・小旅館 9.0万円 (▲0.5万円、▲5.4%)

黒字・赤字別の差が明確に表れている。

- ・大旅館 黒字9.7万円 赤字5.4万円
- ・中旅館 黒字8.9万円 赤字5.8万円
- ・小旅館 黒字11.3万円 赤字6.1万円

(ホテル) 面積当り売上高は8.4万円となっている。

(3) 就業者1人当り売上高

$$\text{就業者1人当り売上高} = \text{総売上高} \div \text{就業者数}$$

旅館ホテル業の従事者は社員のみならずパートアルバイト、派遣社員や委託先で構成されている。この調査では常勤役員、社員、常勤パートを就業者とし、就業者当りの指標を算出している。

就業者1人当り売上高は大旅館ほど効率性が高く規模の差が明確となっている。ただし、各規模とも就業者当りでは売上げを落としている。

- ・大旅館 1,295万円 (▲31万円、▲2.3%)
- ・中旅館 869万円 (▲19万円、▲2.1%)
- ・小旅館 670万円 (▲78万円、▲10.4%)

黒字・赤字別では大旅館や小旅館で顕著な差が表れている。

- ・大旅館 黒字1,355万円 赤字1,032万円
- ・中旅館 黒字869万円 赤字867万円
- ・小旅館 黒字726万円 赤字595万円

(ホテル) 778万円となっている。

図5 1室当り売上の推移 (万円)

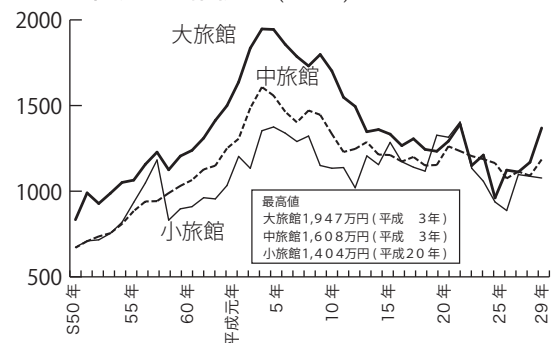


表15 売上効率

(単位: 万円)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
1室当り売上高	平成24年	1,123	1,075	887	1,081
	25年	1,112	1,115	1,097	1,112
	26年	1,169	1,090	1,087	1,130
	27年	1,369	1,185	1,077	1,243
	28年	1,266	1,048	1,163	1,159
	29年	1,358	1,131	1,005	1,236
建物1㎡当り売上高	平成24年	7.9	7.7	7.4	7.7
	25年	7.9	7.5	8.5	7.8
	26年	8.5	7.9	8.4	8.2
	27年	9.8	8.4	8.4	8.9
	28年	8.4	7.5	9.5	8.1
	29年	8.9	7.9	9.0	8.5
就業者1人当り売上高	平成24年	1,172	903	722	1,008
	25年	1,108	867	774	952
	26年	1,214	875	806	1,017
	27年	1,263	911	750	1,010
	28年	1,326	888	748	1,033
	29年	1,295	869	670	1,040

7. 原価効率

(1) 売上総原価率 〈図 6、表 16〉

$$\text{売上総原価率} = \text{売上原価} \div \text{総売上高} \times 100$$

総原価率は平均で23.5%と前年をやや下回る。長期的に低下傾向にある。原価率の高い売上げが伸びないことが考えられる。総原価率は規模別で見ると大旅館ほど高い。

- ・大旅館 24.2% (▲0.0p、▲0.1%)
- ・中旅館 22.8% (▲0.4p、▲1.8%)
- ・小旅館 21.0% (▲1.9p、▲8.1%)

黒字・赤字別では赤字小旅館の総原価率が高い。

- ・大旅館 黒字24.1% 赤字24.5%
- ・中旅館 黒字22.6% 赤字23.3%
- ・小旅館 黒字19.2% 赤字24.1%

(ホテル) 総原価率は22.5 %となっている。

(2) 料理材料費率

$$\text{料理材料費率} = \text{料理材料費} \div \text{宿泊売上} \times 100$$

旅館の料理材料費率は19.9%と20%を下回った。小旅館では前年を1.5p下回り18.4%となっている。

- ・大旅館 19.9% (+0.5p、+2.4%)
- ・中旅館 20.3% (+0.1p、+0.4%)
- ・小旅館 18.4% (▲1.5p、▲7.4%)

黒字・赤字別で見ると、小旅館では赤字が22.0%と高い。

- ・大旅館 黒字20.1% 赤字18.7%
- ・中旅館 黒字20.1% 赤字20.7%
- ・小旅館 黒字16.6% 赤字22.0%

なお、料理材料費率の算出は宿泊売上を分母としたことから、ホテルの料理材料費率は算出していない。

(3) 飲料仕入率

$$\text{飲料仕入率} = \text{飲料仕入} \div \text{飲料売上} \times 100$$

飲物仕入率は平均33.3%となっている。中旅館が低い。

- ・大旅館 34.5% (+1.3p、+4.0%)
- ・中旅館 31.7% (▲1.5p、▲4.5%)
- ・小旅館 34.5% (+3.3p、+10.4%)

黒字・赤字別をみると、大旅館と小旅館で黒字が高く赤字が低い結果となった。

- ・大旅館 黒字35.2% 赤字31.3%
- ・中旅館 黒字31.5% 赤字32.6%
- ・小旅館 黒字34.7% 赤字34.2%

(ホテル) 飲料仕入率は34.1%となっている。

(4) 売店仕入率

$$\text{売店仕入率} = \text{売店仕入} \div \text{売店売上} \times 100$$

売店原価率は前年を2.4p上回るが、一昨年並みで安定している。規模別では小旅館がやや低い結果となった。

- ・大旅館 67.7% (+3.7p、+5.8%)
- ・中旅館 67.5% (+1.1p、+1.7%)
- ・小旅館 65.1% (▲2.4p、▲3.6%)

(ホテル) 売店原価率は63.3%となっている。

図6 売上総原価率の推移 (%)

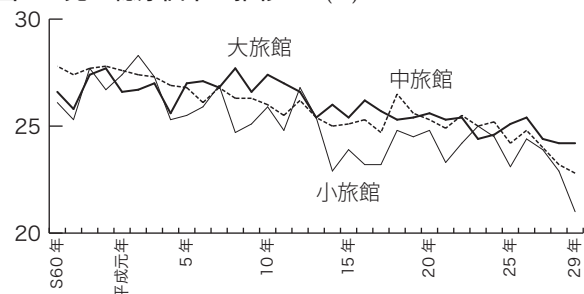


表16 原価率

(単位: %)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
売上総原価率	平成24年	24.6	25.2	24.5	24.8	28.1
	25年	25.1	24.2	23.1	24.6	20.7
	26年	25.4	24.8	24.4	25.1	26.1
	27年	24.4	24.0	23.9	24.2	25.4
	28年	24.2	23.2	22.9	23.7	21.5
	29年	24.2	22.8	21.0	23.5	22.5
料理材料費率	平成24年	19.3	20.2	20.6	19.8	35.5
	25年	19.7	20.1	20.0	19.9	40.2
	26年	19.8	21.0	20.7	20.4	39.8
	27年	18.8	19.4	18.8	19.1	32.7
	28年	19.4	20.2	19.9	19.8	36.9
	29年	19.9	20.3	18.4	19.9	-
飲料仕入率	平成24年	31.6	34.2	34.1	32.9	31.3
	25年	31.5	33.0	32.8	32.2	32.8
	26年	31.5	33.0	34.4	32.4	24.9
	27年	31.9	32.4	35.7	32.6	29.2
	28年	33.2	33.2	31.2	32.9	31.7
	29年	34.5	31.7	34.5	33.3	34.1
売店仕入率	平成24年	66.6	65.7	66.8	66.3	70.0
	25年	66.6	67.8	64.6	66.9	70.2
	26年	68.2	67.0	67.3	67.8	61.4
	27年	66.4	68.4	67.7	67.3	64.1
	28年	64.0	66.4	67.5	65.1	72.7
	29年	67.7	67.5	65.1	67.5	63.3

8. 経費率 〈表 17、表 18〉

旅館ホテル「統一会計基準」に合わせて、今年度から原価を除く経費を人件費、営業費、業務費、管理費、減価償却費の5つに分類することになった。

(1) 人件費率

$$\text{人件費率} = \text{人件費} \div \text{総売上高} \times 100$$

人件費は、役員報酬、給料、退職金、法定福利費、厚生費、外注・委託費、求人費、教育研修費、賞与引当金繰入としている。

旅館ホテル業は労働集約産業であるため人件費圧力が高い。

人件費率は規模にかかわらず前年を上回った。大旅館ほど人の効率が良い。

- ・大旅館 31.6% (+0.2p、+0.7%)
- ・中旅館 34.0% (+0.8p、+2.4%)
- ・小旅館 35.8% (+0.5p、+1.4%)

赤字旅館は黒字旅館よりも人件費率が高い。特に赤字の小旅館と中旅館は37%台となっている。

- ・大旅館 黒字31.2% 赤字 33.9%
- ・中旅館 黒字32.8% 赤字 37.7%
- ・小旅館 黒字34.6% 赤字 37.9%

(ホテル)人件費率は31.8%と旅館より低い。

(2) 営業費率

$$\text{営業費率} = \text{営業費} \div \text{総売上高} \times 100$$

営業費は、販売促進費、営業所費、営業交通費、接待交際費、広告宣伝費、販売手数料としている。

今年度から業務費を設問していることから、前年との比較は難しい。

- ・大旅館 11.0% (▲2.8p、▲20.5%)
- ・中旅館 10.8% (▲4.1p、▲27.4%)
- ・小旅館 11.4% (▲2.7p、▲19.3%)

黒字・赤字別では、小旅館で黒字が高くなっている。

- ・大旅館 黒字10.8% 赤字 12.3%
- ・中旅館 黒字10.6% 赤字 11.2%
- ・小旅館 黒字12.3% 赤字 9.8%

(ホテル)9.6%と旅館より低い。

(3) 業務費率

$$\text{業務費率} = \text{業務費} \div \text{総売上高} \times 100$$

業務費は、サービス費(リネン、客室消耗品費、アメニティ)、備品消耗品費(食器、厨房用品、装飾費)、修繕費、保守管理費、衛生費、車両費、水道光熱費、通信運搬費としている。利用人員に連動する経費で販売促進に該当しないものの合計である。

黒字・赤字別でみると、総じて赤字旅館が高くなっている。

- ・大旅館 黒字14.5% 赤字 15.8%
- ・中旅館 黒字15.3% 赤字 17.1%
- ・小旅館 黒字13.9% 赤字 14.9%

(ホテル)11.2%と旅館より低い。

表17 経費率 (単位: %)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
人件費率	平成24年	30.2	32.5	35.8	31.6	34.8
	25年	30.3	30.7	35.3	30.9	29.8
	26年	30.5	32.2	35.2	31.6	34.5
	27年	30.3	31.8	34.3	31.4	32.8
	28年	31.4	33.2	35.3	32.5	34.0
	29年	31.6	34.0	35.8	32.8	31.8
営業費率	平成24年	12.7	14.0	12.4	13.2	9.4
	25年	13.0	13.9	12.1	13.3	11.5
	26年	13.5	14.1	12.7	13.6	10.4
	27年	13.8	14.1	11.7	13.7	9.2
	28年	13.8	14.8	14.1	14.3	9.4
	29年	11.0	10.8	11.4	11.0	9.6
業務費率	平成24年	—	—	—	—	—
	25年	—	—	—	—	—
	26年	—	—	—	—	—
	27年	—	—	—	—	—
	28年	—	—	—	—	—
	29年	14.6	15.7	14.3	15.0	11.2
管理費率	平成24年	21.8	21.1	22.3	21.6	21.7
	25年	21.8	22.9	21.0	22.2	25.2
	26年	20.2	20.3	20.1	20.2	19.4
	27年	19.9	21.1	21.4	20.6	21.4
	28年	19.5	20.1	18.9	19.6	22.4
	29年	8.7	10.0	10.3	9.3	12.7
減価償却費率	平成24年	7.1	6.4	5.8	6.7	5.7
	25年	6.1	5.7	6.8	6.0	4.9
	26年	7.0	6.7	6.9	6.9	9.6
	27年	5.5	5.3	6.0	5.5	5.4
	28年	5.8	6.2	5.5	5.9	6.6
	29年	6.1	5.4	5.8	5.8	5.4
支払利息率	平成24年	3.2	3.2	2.2	3.1	3.8
	25年	2.8	2.7	2.1	2.7	2.1
	26年	2.6	2.5	1.7	2.5	1.3
	27年	2.1	2.1	1.9	2.1	2.0
	28年	2.2	2.2	1.5	2.1	2.7
	29年	2.3	1.7	1.3	2.0	3.5

(4) 管理費率

$$\text{管理費率} = \text{管理費} \div \text{総売上高} \times 100$$

管理費は、リース料、会費・組合費、地代・家賃、顧問料・調査費、保険料、租税公課、事務用消耗品費、雑費としている。管理費は固定的な経費である。

今年度から業務費を設問していることから、前年との比較は難しい。

- ・大旅館 8.7% (▲10.8p、▲55.2%)
- ・中旅館 10.0% (▲10.1p、▲50.4%)
- ・小旅館 10.3% (▲8.6p、▲45.7%)

黒字・赤字別でみると、中旅館と小旅館で赤字が高い。

- ・大旅館 黒字8.7% 赤字 8.6%
- ・中旅館 黒字9.2% 赤字 12.2%
- ・小旅館 黒字8.9% 赤字 12.6%

(ホテル)管理経費率は12.7%となっている。

(5) 減価償却費率

$$\text{減価償却費率} = \text{減価償却費} \div \text{総売上高} \times 100$$

建物や設備などの資産価値を毎年減価償却する経費である。平均では前年なみとなっている。

- ・大旅館 6.1% (+0.3p、+5.7%)
- ・中旅館 5.4% (▲0.8p、▲11.7%)
- ・小旅館 5.8% (+0.3p、+4.7%)

黒字・赤字別では、赤字旅館が高くなっている。

- ・大旅館 黒字5.9% 赤字 7.7%
- ・中旅館 黒字5.3% 赤字 6.0%
- ・小旅館 黒字5.4% 赤字 6.4%

(ホテル)5.4%となっている。

(6) 支払利息率

$$\text{支払利息率} = \text{支払利息} \div \text{総売上高} \times 100$$

支払利息率は売上高に占める支払利息の割合である。大旅館が多い。

- ・大旅館 2.3% (+0.1p、+2.3%)
- ・中旅館 1.7% (▲0.5p、▲20.5%)
- ・小旅館 1.3% (▲0.2p、▲10.6%)

(ホテル)3.5%と旅館よりやや高い。

9. 利益率 〈図7、表18、表19〉

利益とは「売上－経費」である。売上から原価を差し引いた売上総利益、売上総利益から諸経費を差し引いた営業利益など各段階ごとに利益を算出している。

(1) 売上総利益率

$$\text{売上総利益率} = \text{売上総利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

原価率が低下することで、売上総利益率はわずかに上昇傾向にある。

- ・大旅館 75.8% (±0.0p、±0.0%)
- ・中旅館 77.2% (+0.3p、+0.4%)
- ・小旅館 79.0% (+1.9p、+2.4%)

黒字・赤字別では黒字旅館が高いが顕著な差とまではいえない。

- ・大旅館 黒字75.9% 赤字 75.5%
- ・中旅館 黒字77.4% 赤字 76.7%
- ・小旅館 黒字80.8% 赤字 75.9%

(ホテル)77.5%となっている。

(2) GOP 利益率 (償却前営業利益率)

$$\text{GOP 利益率} = (\text{減価償却費} + \text{営業利益}) \div \text{総売上高} \times 100$$

GOP利益は、売上高から運営経費を控除した利益である。GOPは Gross Operation Profit の略で、直訳すれば「運営総利益」である。Profitは利益であるからGOP利益という表現は不適切だがあえて利益をつけている。

運営経費には減価償却費や固定資産税、支払利息は含まないとされるが、この調査では減価償却費と営業利益の合計でGOP利益を求めている。

GOP利益を求める根拠は所有と運営を分離して把握したいという考えから来ている。すなわち、GOP利益は支配人など運営トップの成績表といえる。

GOP利益率は大旅館が高いものの各規模とも前年を下回る。

- ・大旅館 9.9% (▲1.2p、▲11.4%)
- ・中旅館 6.8% (▲2.0p、▲23.5%)
- ・小旅館 7.2% (▲1.5p、▲17.3%)

黒字・赤字別では差が顕著になっている。

- ・大旅館 黒字10.7% 赤字 4.9%

- ・中旅館 黒字9.4% 赤字 ▲1.6%

- ・小旅館 黒字11.1% 赤字 0.6%

(ホテル)12.2%と旅館を上回る。

(3) 営業利益率

$$\text{営業利益率} = \text{営業利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

営業利益率は各規模とも前年を下回る。

- ・大旅館 3.8% (▲1.6p、▲29.8%)
- ・中旅館 1.3% (▲1.4p、▲50.8%)
- ・小旅館 1.5% (▲1.7p、▲54.7%)

黒字・赤字別では営業利益率の差は顕著になっている。中旅館と小旅館で差は10pを超える。

- ・大旅館 黒字4.9% 赤字 ▲2.8%
- ・中旅館 黒字4.2% 赤字 ▲7.6%
- ・小旅館 黒字5.7% 赤字 ▲5.8%

(ホテル)6.8%と旅館より高い。

図7 営業利益率の推移 (%)

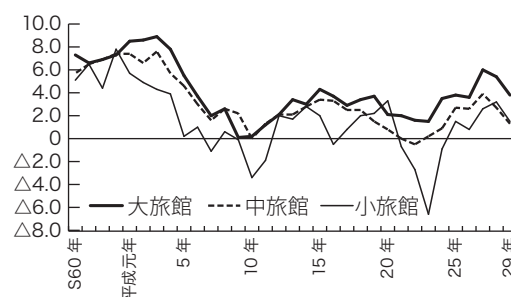


表18 利益率

(単位: %)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
売上総利益率	平成24年	75.4	74.9	75.4	75.2
	25年	74.9	75.8	76.6	75.4
	26年	74.6	75.3	75.7	75.0
	27年	75.6	76.1	76.0	75.9
	28年	75.8	76.9	77.1	76.4
	29年	75.8	77.2	79.0	76.5
GOP 利益率	平成24年	10.7	7.3	4.9	8.9
	25年	9.8	8.3	8.1	9.1
	26年	10.4	8.7	7.7	9.5
	27年	11.6	9.2	8.6	10.2
	28年	11.1	8.8	8.7	10.0
	29年	9.9	6.8	7.2	8.5
営業利益率	平成24年	3.5	0.9	▲0.9	2.1
	25年	3.8	2.6	1.3	3.1
	26年	3.4	2.0	0.7	2.7
	27年	6.0	3.9	2.6	4.7
	28年	5.4	2.7	3.2	4.1
	29年	3.8	1.3	1.5	2.7

(4) 経常利益率

$$\text{経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

経常利益率は2年連続で前年を下回る。営業利益がそのままスライドするような形で、金利負担など営業外収支の影響が少ない。

- ・大旅館 3.8% (▲0.9p、▲20.1%)
- ・中旅館 1.8% (▲0.4p、▲16.7%)
- ・小旅館 1.8% (▲1.7p、▲49.2%)

黒字・赤字別とはこの経常利益を基準としている。

黒字・赤字別の経常利益率は、

- ・大旅館 黒字5.4% 赤字 ▲5.8%
- ・中旅館 黒字5.2% 赤字 ▲8.8%
- ・小旅館 黒字6.9% 赤字 ▲6.8%

(ホテル) 経常利益率は6.6%と旅館平均を上回っている。

(5) 償却前利益率

$$\text{償却前利益率} = (\text{減価償却費} + \text{経常利益}) \div \text{総売上高} \times 100$$

経常利益に減価償却費を加えて償却前利益である。減価償却費は資産償却のため現金の支出を伴わない。したがって、償却前利益が営業上発生する現金である。法人税も考慮しなければならないが、基本的にこの現金が借入金の返済原資となる。各規模とも前年を下回る。

- ・大旅館 9.9% (▲0.6p、▲5.9%)
- ・中旅館 7.2% (▲1.1p、▲13.0%)
- ・小旅館 7.6% (▲1.4p、▲16.4%)

(ホテル) 12.0%と旅館より高くなっている。

表19 利益率 (単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
経常利益率	平成24年	2.9	▲0.3	▲1.1	1.3	▲0.1
	25年	3.6	2.0	2.3	2.8	6.8
	26年	2.6	1.5	1.2	2.1	4.8
	27年	5.6	3.4	3.5	4.3	6.1
	28年	4.7	2.2	3.5	3.6	3.7
	29年	3.8	1.8	1.8	2.9	6.6
償却前利益率	平成24年	7.0	9.0	5.1	7.7	4.9
	25年	9.6	7.6	9.1	8.8	11.7
	26年	9.6	8.2	8.1	8.9	10.7
	27年	11.1	8.6	9.5	9.8	11.5
	28年	10.5	8.3	9.0	9.5	10.3
	29年	9.9	7.2	7.6	8.8	12.0

10. 就業者 (表22、表23)

旅館ホテル業には様々な雇用形態の人が従事している。この調査では常勤者である常勤役員、正社員、常勤パートタイマーを就業者としている。

(1) 就業者の数

$$\text{就業者数} = \text{常勤役員} + \text{正社員} + \text{常勤パートタイマー}$$

1軒当り就業者数は規模に比例し、小旅館で減員となっている。

- ・大旅館 174人 (+31人、+22.0%)
- ・中旅館 72人 (+5人、+7.9%)
- ・小旅館 28人 (▲3人、▲8.8%)

(ホテル) 1軒当り就業者数は55人となっている。

(2) 正社員の平均年齢

男性は平均で45.9歳と前年と同じ結果になった。大旅館が若い。

- ・大旅館 43.8歳 (+1.0歳、+2.4%)
- ・中旅館 45.4歳 (▲1.2歳、▲2.5%)
- ・小旅館 47.8歳 (+1.3歳、+2.7%)

女性は平均で43.5歳となっている。新卒の採用がある大旅館は若い。小旅館は年齢が高い。

- ・大旅館 38.5歳 (+1.9歳、+5.3%)
- ・中旅館 42.4歳 (▲1.4歳、▲3.3%)
- ・小旅館 48.0歳 (+2.6歳、+5.9%)

表20 就業者数 (単位：人)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
就業者数	平成24年	161	74	24	77	46
	25年	165	75	28	78	34
	26年	152	69	25	72	77
	27年	168	78	28	74	86
	28年	143	67	31	68	30
	29年	174	72	28	80	55

表21 正社員の年齢 (単位：歳)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
男性	平成24年	42.3	44.2	46.7	44.6	45.6
	25年	42.8	45.2	46.5	45.1	44.7
	26年	42.0	45.8	45.1	44.8	42.5
	27年	42.5	45.8	46.1	45.4	43.3
	28年	42.8	46.6	46.5	45.9	48.6
	29年	43.8	45.4	47.8	45.9	44.2
女性	平成24年	37.1	42.0	45.8	42.3	39.0
	25年	37.3	42.1	46.0	42.3	41.0
	26年	36.2	41.9	46.9	42.3	42.1
	27年	36.7	42.5	47.3	43.2	39.4
	28年	36.6	43.8	45.4	43.1	44.2
	29年	38.5	42.4	48.0	43.5	39.8

11. 従業員効率 〈図 8、表 22、表 23〉

(1) 1 室当り就業者数

$$1 \text{ 室当り就業者数} = \text{就業者数} \div \text{客室数}$$

1室当り就業者数は1.19名で前年よりやや増員となっている。

- ・大旅館 1.05人 (+0.09人、+9.8%)
- ・中旅館 1.30人 (+0.10人、+8.9%)
- ・小旅館 1.48人 (▲0.10人、▲6.5%)

黒字・赤字別をみると、黒字旅館の方が人が多い。

- ・大旅館 黒字1.09人 赤字 0.90人
- ・中旅館 黒字1.44人 赤字 1.00人
- ・小旅館 黒字1.71人 赤字 1.26人

(ホテル)0.81人で旅館より人が少ない。

(2) 就業者 1 人当り年間宿泊人員

$$\text{就業者 1 人当り年間宿泊人員} = \frac{\text{年間宿泊利用人員}}{\text{就業者数}}$$

就業者当りの宿泊人員は前年を4名上回る。大旅館643人に対して小旅館は336人ととどまる。

- ・大旅館 643人 (▲0人、▲0.1%)
- ・中旅館 465人 (▲26人、▲5.3%)
- ・小旅館 336人 (▲21人、▲6.0%)

黒字・赤字別でみると大旅館や中旅館で黒字の方が少なく、赤字旅館の方が従業員効率は高い。

- ・大旅館 黒字620人 赤字 743人
 - ・中旅館 黒字437人 赤字 553人
 - ・小旅館 黒字353人 赤字 313人
- (ホテル)482人となっている。

(3) 就業者 1 人当り人件費

$$\text{就業者 1 人当り人件費} = \frac{\text{(外注費などを含む) 人件費}}{\text{就業者数}}$$

人件費には正規給与の他に外注費や臨時・アルバイトの給与、法定福利費などが含まれる。人件費をあえて就業者数で割り出している。大旅館が多く小旅館が少ない。

- ・大旅館 409万円 (▲7万円、▲1.6%)
- ・中旅館 295万円 (+4万円、+1.3%)
- ・小旅館 242万円 (▲24万円、▲8.9%)

黒字・赤字別をみると、大旅館と小旅館では黒字の方が人件費が高い。

- ・大旅館 黒字422万円 赤字 350万円
 - ・中旅館 黒字285万円 赤字 327万円
 - ・小旅館 黒字254万円 赤字 226万円
- (ホテル)247万円と旅館より低い。

(4) 労働生産性

$$\text{労働生産性} = \text{売上総利益} \div \text{就業者数}$$

労働生産性は就業者1人当り売上総利益であり人件費支払いの原資といえる。大旅館で高く、小旅館で低い。各規模とも前年を下回っている。

表 22 従業員効率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
1室 当り 就業者 数 (人)	平成24年	0.96	1.22	1.21	1.08	0.62
	25年	0.91	1.27	1.52	1.12	0.64
	26年	0.96	1.25	1.40	1.12	0.75
	27年	1.08	1.32	1.49	1.25	0.96
	28年	0.96	1.20	1.58	1.13	0.45
	29年	1.05	1.30	1.48	1.19	0.81
就業者1人 当り 宿泊人員 (人)	平成24年	591	467	345	511	449
	25年	590	457	308	494	494
	26年	624	442	369	514	475
	27年	562	454	360	478	355
	28年	643	491	357	528	696
	29年	643	465	336	532	482
就業者1人 当り 人件費 (万円)	平成24年	354	295	259	319	318
	25年	388	270	270	321	333
	26年	370	278	287	320	357
	27年	383	292	257	319	289
	28年	416	291	266	336	276
	29年	409	295	242	341	247

表 23 労働生産性、労働分配率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
労働生産性 (万円)	平成24年	884	676	543	758	676
	25年	828	658	593	718	551
	26年	906	658	609	762	765
	27年	954	699	568	770	654
	28年	1,005	675	580	789	635
	29年	982	670	526	796	603
労働分配率 (%)	平成24年	40.1	43.0	46.3	41.7	43.4
	25年	40.5	40.5	46.2	40.9	37.5
	26年	40.9	42.8	46.6	42.1	46.7
	27年	40.1	41.7	45.1	41.4	44.1
	28年	41.4	43.1	45.8	42.6	43.4
	29年	41.7	44.0	45.4	42.8	41.0

- ・大旅館 982万円 (▲23万円、▲2.3%)
- ・中旅館 670万円 (▲5万円、▲0.6%)
- ・小旅館 526万円 (▲54万円、▲9.3%)

黒字・赤字別でみると、大旅館と小旅館で顕著な差がみられる。

- ・大旅館 黒字1,028万円 赤字 779万円
- ・中旅館 黒字672万円 赤字 665万円
- ・小旅館 黒字584万円 赤字 451万円

(ホテル)603万円と旅館を下回る。

(5) 労働分配率 (図8)

$$\text{労働分配率} = \text{人件費} \div \text{売上総利益} \times 100$$

売上総利益に占める人件費の割合が労働分配率である。旅館ホテル経営では労働分配率40%以内が基準と言われる。小旅館では45.4%と高い。大旅館と中旅館は上昇している。

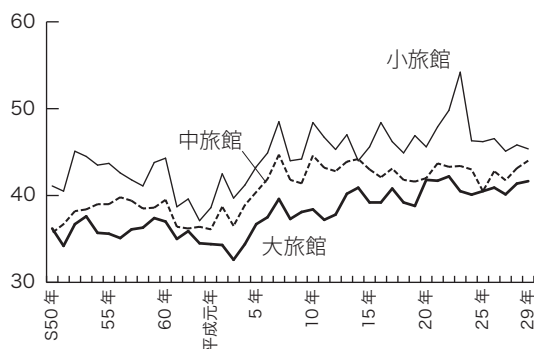
- ・大旅館 41.7% (+0.3p、+0.7%)
- ・中旅館 44.0% (+0.9p、+2.0%)
- ・小旅館 45.4% (▲0.4p、▲1.0%)

黒字・赤字別でみると、各規模とも顕著な差となっている。大旅館では3.8p差に対して小旅館では7.2p差がある。赤字小旅館は労働分配率は50%となっている。

- ・大旅館 黒字41.1% 赤字44.9%
- ・中旅館 黒字42.4% 赤字49.2%
- ・小旅館 黒字42.8% 赤字50.0%

(ホテル)41.0%と3年連続して前年を下回る。

図8 労働分配率の推移 (%)



12. 建物面積効率 (表24)

(1) 1室当り建物延べ面積

$$1 \text{ 室当り建物延べ面積} = \text{建物延べ面積} \div \text{客室数}$$

小旅館の1室当り面積が小さい。会議室など客室以外の付帯施設の差であると考えられる。

- ・大旅館 154m² (+1m²、+0.4%)
- ・中旅館 145m² (+3m²、+2.1%)
- ・小旅館 116m² (▲7m²、▲5.5%)

黒字・赤字別でみると、赤字旅館が広い。

- ・大旅館 黒字150m² 赤字 173m²
- ・中旅館 黒字140m² 赤字 155m²
- ・小旅館 黒字111m² 赤字 122m²

(ホテル)1室当り建物延べ面積は72m²と旅館の2分の1となっている。

(2) 定員1人当り提供面積

$$\text{定員1人当り提供面積} = \text{建物延べ面積}$$

$$\div \text{収容定員}$$

1室当り面積と同様に大旅館が広く小旅館が小さくなっている。

- ・大旅館 34.5m² (+0.7m²、+2.1%)
- ・中旅館 31.6m² (▲0.1m²、▲0.2%)
- ・小旅館 27.6m² (▲1.7m²、▲5.9%)

(ホテル)定員面積は39.1m²と旅館より広い。

表24 建物面積効率 (単位: m²)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
1室当り延べ面積	平成24年	143	141	119	140
	25年	143	145	119	142
	26年	144	147	135	145
	27年	143	147	122	143
	28年	153	142	123	145
	29年	154	145	116	147
定員1人当り延べ面積	平成24年	33.3	30.1	28.0	31.5
	25年	34.9	31.5	28.2	32.9
	26年	33.3	33.2	33.0	33.2
	27年	33.2	32.1	27.8	32.0
	28年	33.8	31.7	29.3	32.4
	29年	34.5	31.6	27.6	32.7

13. 資本効率・資金回収年数 〈表 25〉

(1) 総資本利益率

$$\text{総資本利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資本} \times 100$$

総資本利益率は総資本に対する経常利益の割合を示す。利益率が低下したことにより総資本利益率も前年を下回る。

- ・大旅館 2.0% (▲0.3p、▲10.8%)
- ・中旅館 1.2% (▲0.4p、▲26.8%)
- ・小旅館 1.5% (▲1.1p、▲43.2%)

黒字・赤字別では顕著な差が現れている。

- ・大旅館 黒字3.0% 赤字 ▲2.7%
- ・中旅館 黒字4.0% 赤字 ▲5.6%
- ・小旅館 黒字4.9% 赤字 ▲4.7%

(ホテル)3.9%と旅館より高い。

(2) 総資本回転率

$$\text{総資本回転率} = \text{総売上高} \times \text{総資本}$$

総資本回転率は、総資本に対する売上高である。この数値が高いほど投下した資本がよく回っているといえる。したがって高いほどよい。

総資本回転率は、業界ごとに標準値が異なる。旅館ホテルにあっては一般に新增改築の直後は低く、資産償却が進むに従って高い値を示す。

大旅館は売上げ増だったが、総資産も大幅増となったため回転率は前年を下回った。中旅館と小旅館が約0.7回となっている。

- ・大旅館 0.54回 (▲0.05回、▲8.6%)
- ・中旅館 0.74回 (+0.06回、+9.3%)
- ・小旅館 0.70回 (▲0.03回、▲4.3%)

黒字旅館が高く、赤字旅館が低い。中旅館の黒字は0.80回となっている。

- ・大旅館 黒字0.55回 赤字 0.47回
- ・中旅館 黒字0.80回 赤字 0.60回
- ・小旅館 黒字0.71回 赤字 0.69回

(ホテル)0.53回となっている。

(3) 資金回収年数

$$\text{資金回収年数} = (\text{長期借入金} + \text{短期借入金}) \div (\text{減価償却費} + \text{経常利益})$$

資金回収年数は借入金が理論上何年で完済するかをみる指標である。減価償却費と経常利益の合計額を原資として、その全額を借入金返済にあてるという計算となっている。

借入金が少なく利益が多ければ、回収年数は短くなる。資金回収年数は小さい数値ほどよい。

大旅館では借入金依存度が低下したことから資金回収年数は前年を下回った。

- ・大旅館 11.9年 (▲1.8年、▲13.1%)
- ・中旅館 13.8年 (+0.4年、+3.0%)
- ・小旅館 10.6年 (+0.6年、+6.0%)

黒字・赤字別の差は顕著である。黒字旅館は各規模とも10年を下回るが、大旅館の赤字では返済に100年以上かかる計算となる。中旅館と小旅館の赤字は計算上回収不能となっている。

- ・大旅館 黒字8.9年 赤字 114.8年
- ・中旅館 黒字7.6年 赤字 —
- ・小旅館 黒字5.3年 赤字 —

(ホテル)資金回収年数は13.3年となっている。

表25 資本効率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総資本利益率(%)	平成24年	0.2	1.4	▲0.3	0.7	▲0.5
	25年	2.1	1.1	1.9	1.6	2.3
	26年	1.2	1.2	1.4	1.2	2.5
	27年	3.6	2.0	2.1	2.7	2.2
	28年	2.3	1.6	2.6	2.1	1.4
	29年	2.0	1.2	1.5	1.8	3.9
総資本回転率(回)	平成24年	0.55	0.52	0.43	0.52	0.33
	25年	0.54	0.55	0.66	0.55	0.64
	26年	0.63	0.69	0.71	0.66	0.40
	27年	0.58	0.59	0.62	0.59	0.35
	28年	0.59	0.68	0.73	0.64	0.43
	29年	0.54	0.74	0.70	0.61	0.53
資金回収年数(年)	平成24年	18.5	14.8	27.3	17.3	43.8
	25年	11.5	16.3	13.2	13.3	13.3
	26年	14.5	13.9	11.7	14.1	6.0
	27年	9.4	12.0	11.2	10.6	7.2
	28年	13.7	13.4	10.0	13.1	21.2
	29年	11.9	13.8	10.6	12.3	13.3

Ⅱ. 全件調査

以下の項目は、回答された全ての調査票を対象に集計している。

1. 集客の方法 〈図 9、表 26〉

(1) 予約方法

お客様はどのような方法で旅館ホテルを予約されているのでしょうか。リアルエージェントと言われる旅行業、インターネット窓口であるネット業者、自社サイトのそれぞれの比率を設問している。図9の「直接その他」は100%から引き算で算出している。

(2) 旅行業経由

$$\text{旅行業経由} = \frac{\text{旅行業経由の宿泊人員}}{\text{年間延べ宿泊人員}} \times 100$$

旅行業経由は長期に低下している。大旅館と中旅館で前年を下回り、小旅館は前年を上回った。

- ・大旅館 42.7% (▲9.4p、▲18.1%)
- ・中旅館 37.8% (▲3.3p、▲8.0%)
- ・小旅館 31.8% (+0.9p、+2.9%)

大旅館と小旅館では黒字旅館で旅行業依存度が高い。

- ・大旅館 黒字44.4% 赤字 35.4%
- ・中旅館 黒字38.3% 赤字 39.0%
- ・小旅館 黒字42.3% 赤字 24.5%

(ホテル) 18.4%となっている。

(3) ネット業者経由

$$\text{ネット業者経由} = \frac{\text{ネット経由の宿泊人員}}{\text{年間延べ宿泊人員}} \times 100$$

ネット業者経由は大旅館で上昇している。中旅館と小旅館では減少傾向にある。

- ・大旅館 24.3% (+4.2p、+21.1%)
- ・中旅館 25.7% (▲1.6p、▲6.1%)
- ・小旅館 27.8% (▲0.8p、▲2.9%)

赤字の小旅館がネット業者経由が高い。

- ・大旅館 黒字24.2% 赤字 24.0%
- ・中旅館 黒字27.3% 赤字 21.6%
- ・小旅館 黒字23.0% 赤字 28.6%

(ホテル) 41.1%と旅館より高い。

(4) 自社サイト経由の宿泊人員

$$\text{自社サイト経由の構成比} = \frac{\text{自社サイトよりの宿泊人員}}{\text{年間延べ宿泊人員}} \times 100$$

自社サイトは小旅館が15.0%と高い。大旅館は初めて10%の大台となった。旅館ホテルにとっては手数料のかからない自社サイトからの予約を増やしたいところである。

- ・大旅館 10.3% (+2.4p、+31.2%)
- ・中旅館 10.5% (▲0.4p、▲4.2%)
- ・小旅館 15.0% (▲0.6p、▲4.0%)

各規模とも黒字旅館が高い。

- ・大旅館 黒字9.8% 赤字 7.3%
- ・中旅館 黒字11.8% 赤字 7.9%
- ・小旅館 黒字16.3% 赤字 13.0%

(ホテル) 10.4%となっている。

図9 宿泊人員構成 (単位：%)

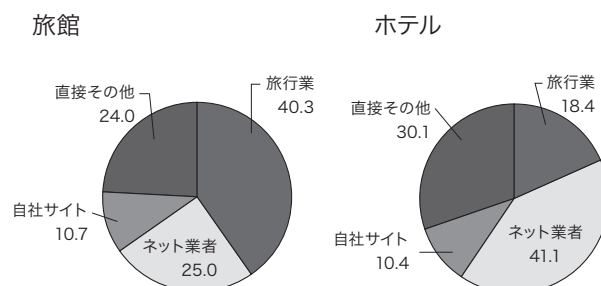


表26 エージェントと自社HP

(単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
旅行業経由	平成24年	59.3	52.4	32.8	55.2	30.9
	25年	53.6	49.2	23.5	50.0	20.6
	26年	48.3	43.4	27.1	44.6	22.2
	27年	50.0	44.0	21.4	44.2	21.1
	28年	52.1	41.1	30.9	44.9	10.0
	29年	42.7	37.8	31.8	40.3	18.4
ネット業者経由	平成24年	17.4	21.7	33.2	19.9	30.7
	25年	15.9	20.9	34.9	19.2	43.9
	26年	17.3	21.9	34.1	20.6	35.6
	27年	19.7	26.5	35.5	24.6	43.9
	28年	20.1	27.3	28.6	24.1	44.9
	29年	24.3	25.7	27.8	25.0	41.1
自社サイトより	平成24年	5.2	7.6	18.9	6.8	3.6
	25年	9.6	11.4	22.8	11.2	13.1
	26年	9.3	13.2	21.9	11.9	9.8
	27年	8.7	12.0	18.6	11.3	10.6
	28年	7.9	10.9	15.6	10.1	15.7
	29年	10.3	10.5	15.0	10.7	10.4

(注)24年までは「インターネット経由」「うち自社サイト」と設問していた。

2. ホームページ 〈表 27、表 28、表 29〉

(1) ホームページの対応言語

ホームページの対応言語で「日本語のみ」は36.0%に低下した。

外国語対応では英語が最も多い。次いで、香港や台湾で用いられている繁体字(中国語)、中国大陆で用いられている簡体字(中国語)、韓国語となっている。

- ・英語 62.7% (+8.6p)
- ・繁体字 38.7% (+5.6p)
- ・簡体字 33.3% (+10.3p)
- ・韓国語 31.1% (+8.8p)
- ・タイ語 6.7% (+2.8p)
- ・日本語のみ 36.0% (▲4.3p)

(ホテル) 日本語のみが30.0%となっている。

(2) 予約機能

ホームページからの即時予約は92.2%が可能としている。大旅館は97.7%となっている。

- ・大旅館 97.7% (▲0.3p、▲0.3%)
- ・中旅館 91.9% (+1.0p、+1.1%)
- ・小旅館 89.5% (+8.0p、+9.8%)

(ホテル) 87.5%となっている。

(3) 対応言語

即時予約可能なHPがある場合の対応言語は、日本語のみが50.2%で、英語48.8%となっている。次いで、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)、韓国語の順となっている。タイ語や欧州の言語への対応もみられる。(ホテル) 日本語のみは57.1%で、英語は42.9%となっている。中国語(簡体字、繁体字)、韓国語の順で高い。外国語対応は旅館より低い。

表27 自社ホームページ対応言語 (単位: %)

年 度	英語	中国語		韓国語	タイ語	仏語	独語	スペイン語	その他	日本語のみ
		繁体字	簡体字							
旅 館	24年	37.5	18.1	15.1	15.8	—	—	—	2.7	57.1
	25年	39.1	20.1	15.1	13.0	0.7	0.7	0.0	2.7	56.2
	26年	40.7	20.3	14.9	13.6	0.3	0.3	0.7	0.3	54.2
	27年	49.0	23.7	15.6	15.6	1.3	0.6	0.6	0.3	45.5
	28年	54.1	33.1	23.0	22.3	3.9	2.3	1.3	1.6	40.3
	29年	62.7	38.7	33.3	31.1	6.7	3.1	2.7	2.2	36.0
ホ テ ル	24年	30.4	8.7	4.3	4.3	—	—	—	0.0	69.6
	25年	50.0	17.9	10.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9
	26年	28.6	14.3	10.7	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	67.9
	27年	36.4	6.1	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.6
	28年	42.9	25.0	17.9	21.4	3.6	0.0	0.0	0.0	57.1
	29年	70.0	36.7	23.3	30.0	10.0	3.3	6.7	3.3	30.0

(注) タイ語、仏語、独語は25年調査より設問している。

表28 自社ホームページについて (単位: %)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホ テ ル
自 社 専 用 H P が あ る	平成24年	100.0	96.4	89.0	94.3
	25年	100.0	97.6	86.3	93.6
	26年	100.0	97.2	89.8	94.5
	27年	100.0	93.9	89.5	93.1
	28年	96.6	93.9	82.9	92.8
	29年	100.0	100.0	98.7	99.6
H P か ら 即 時 予 約 す る 事 が 可 能	平成24年	96.3	87.9	80.0	86.6
	25年	96.2	90.3	76.9	86.1
	26年	100.0	92.3	76.6	86.7
	27年	98.0	90.9	81.5	88.2
	28年	98.0	90.9	81.5	88.2
	29年	97.7	91.9	89.5	92.2

表29 即時予約可能なHPがある場合の対応言語 (単位: %)

29年	英語	中国語		韓国語	タイ語	仏語	独語	スペイン語	その他	日本語のみ
		繁体字	簡体字							
旅 館	48.8	30.0	26.8	24.9	4.2	0.9	1.4	0.9	0.9	50.2
ホ テ ル	42.9	10.7	10.7	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1

3. 外国人宿泊客〈表29、表31、表32、表33、表34〉

(1) 外国人宿泊人員比率

$$\text{外国人宿泊人員比率} = \frac{\text{外国人宿泊人員}}{\text{年間延べ宿泊人員}} \times 100$$

外国人宿泊人員比率は10.2%に上昇した。外国人宿泊は小旅館がリードしている。

- ・大旅館 11.2% (+0.1p、+0.7%)
- ・中旅館 8.1% (+0.9p、+12.8%)
- ・小旅館 14.0% (+2.9p、+26.3%)

(ホテル) 15.9%と大幅に増加した。

(2) 地域別外国人宿泊人員比率

地域別では北海道が24.0%と高い。次いで四国、関西、九州となっている。特に四国の伸び率が高い。

(3) 国籍別外国人宿泊人員

$$\text{国籍別外国人} = \frac{\text{国別の人員}}{\text{外国人宿泊人員}} \times 100$$

本調査において外国人の国籍は台湾が最も多く25.0%を占めるが、台湾の比率は低下傾向にある。

次いで多いのが中国22.0%で、香港、韓国が続く。香港は4年連続増加している。
(ホテル) 中国からの来訪が31.5%と多い。

表30 外国人宿泊人員比率 (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
平成 24 年	4.0	1.8	7.9	3.4	7.6
25 年	5.2	3.6	4.2	4.5	9.0
26 年	7.5	6.0	8.1	7.0	8.1
27 年	7.6	6.5	10.0	7.3	8.2
28 年	11.1	7.2	11.1	9.5	5.5
29 年	11.2	8.1	14.0	10.2	15.9

表31 地域別外国人宿泊人員比率 (単位：%)

地 域	28年	29年	前年比
北 海 道	18.2	24.0	131.7
東 北	7.5	2.0	26.3
関 東	10.2	7.1	69.8
北 陸 信 越	3.9	4.9	125.3
中 部	4.8	4.7	98.7
関 西	14.9	12.5	84.1
中 国	4.2	4.6	109.7
四 国	4.0	12.6	314.8
九 州	7.6	12.1	159.8

表32 国籍別外国人宿泊人員 (単位：%)

年 度		中 国	韓 国	台 湾	香 港	タ イ	米 国	オーストラリア	その他不明
旅 館	平成 24 年	8.7	9.3	45.3	11.4	－	5.5	－	18.9
	25 年	9.3	8.6	44.6	10.8	3.4	2.3	－	20.5
	26 年	15.6	8.2	36.6	12.4	4.1	2.4	－	20.0
	27 年	19.4	11.5	28.1	12.7	3.0	3.1	－	21.4
	28 年	23.3	15.5	26.3	12.6	4.0	3.0	－	14.6
	29 年	22.0	15.2	25.0	16.6	3.0	2.6	1.1	14.5
ホ テ ル	平成 24 年	3.9	6.0	11.7	2.5	－	4.3	－	69.1
	25 年	11.6	4.0	13.9	6.6	3.6	5.7	－	53.0
	26 年	15.5	8.7	15.2	5.2	4.1	4.8	－	44.8
	27 年	45.5	7.9	13.4	8.9	1.7	7.4	－	14.4
	28 年	16.6	10.4	9.8	6.9	6.8	9.3	－	38.7
	29 年	31.5	11.1	10.5	11.9	4.3	2.8	1.7	26.1

(4) 外国人受け入れの意向について

「料金に関わりなく受け入れたい」という積極派が増加し49.4%となっている。一方、「日本人観光客を優先する」は22.9%となっている。

外国人の受け入れ意向を規模別にみると、「料金に関わりなく…」は小旅館がもっとも高く積極的であるが、小旅館は「日本人優先」も高く二極化している。(ホテル)「料金に関わりなく…」は61.3%と高い。前年よりも20p近く上昇している。「日本人優先」が一気に低下している。

4. インターネット対応 〈表 35、表 36〉

(1) サイトコントローラーの導入状況

多くの旅館ホテルは複数のネット業者と契約している。ネット業者に提供した客室管理を自動化するソフトがサイトコントローラーである。その導入状況は大旅館で97.7%となっているが、小旅館は75.0%と低い。

(ホテル)導入状況は71.9%と旅館の平均よりも低い。

(2) 公衆無線 LAN の設置

スマートフォン(スマホ)の普及により公衆無線LANのニーズが高まっている。さらに、訪日外国人はデータローミングを利用してスマートフォンを使用すると高額な国際通信料が必要となる。そのため、無料の電波は訪日外国人にとって必須といえる。

公衆無線LANを設置しているのは、旅館では94.8%となっている。規模別では大旅館の設置が97.7%だが、小旅館は90.8%にとどまる。

(ホテル)90.6%となっている。

(3) 公衆無線 LAN の設置場所

次に、公衆無線LANを設置済みの旅館ホテルを対象に設置場所を設問したところ、全館は68.5%となっている。規模別では小旅館が高く、また地域別では北海道、東北、北陸信越、関西などで全館導入が進む。

全館導入ができていない旅館ホテルの設置場所で最も多いのはロビーとなっている。大旅館では会議室での導入が比較的多くなっている。

(ホテル)全館導入が79.3%と旅館より高くなっている。

表33 外国人の受け入れ意向 (単位：%)

年 度		料金に関わりなく受け入れたい	高単価の外客のみ受け入れたい	日本人観光客を優先する	外客は受け入れたくない
旅 館	平成 24 年	32.4	29.3	34.0	0.8
	25 年	40.5	25.4	27.8	2.7
	26 年	44.1	24.1	28.1	2.7
	27 年	45.1	26.6	21.4	2.9
	28 年	46.9	23.0	24.6	1.3
	29 年	49.4	22.9	22.9	1.7
ホ テ ル	平成 25 年	60.7	3.6	17.9	3.6
	26 年	50.0	17.9	28.6	3.6
	27 年	51.5	9.1	33.3	0.0
	28 年	42.9	7.1	46.4	3.6
	29 年	61.3	16.1	19.4	3.2

表34 規模別外国人の受け入れ意向 (単位：%)

平成29年度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホ テ ル
料金に関わりなく受け入れたい	40.9	48.6	55.3	49.4	61.3
高単価の外客のみ受け入れたい	36.4	25.2	11.8	22.9	16.1
日本人観光客を優先する	15.9	20.7	30.3	22.9	19.4
外客は受け入れたくない	2.3	0.9	2.6	1.7	3.2

表35 インターネット対応状況 (単位：%)

	サイトコントローラー(手間いらず、ねっばん、TLリンカーン等)を導入している	公衆無線 LAN を設置している
旅 館	85.3	94.8
大旅館	97.7	97.7
中旅館	87.4	96.4
小旅館	75.0	90.8
北海道	90.0	95.0
東北	90.3	93.5
関東	78.6	85.7
北陸信越	78.6	95.2
中部	79.4	94.1
関西	92.5	100.0
中国	90.0	100.0
四国	88.9	100.0
九州	88.2	94.1
黒字旅館	88.0	96.2
赤字旅館	79.5	91.8
ホ テ ル	71.9	90.6

5. クレジットカード&電子決済〈表 37〉

(1) クレジットカード決済

クレジットカード決済が可能な旅館ホテルは94.8%に及ぶ。大旅館は97.7%が決済可能としている。小旅館は90.8%にとどまる。地域別では四国が100%であった。

(ホテル)93.8%が可能としており旅館の平均を下回る。

(2) 決済端末の導入

カード決済が可能な旅館ホテルに決済端末の導入を設問した。全体では96.3%で大旅館は100%となっている。地域別では、関西と九州が100%となっている。

(ホテル)決済端末の導入は96.6%となっている。

(3) PayPal の導入状況

キャッシュレス化の流れを受けPayPalの導入状況を設問した。キャッシュレス化によりネット予約時の事前決済が可能となる。

PayPalの導入は大旅館で40.9%と導入がすすみ、小旅館は27.6%にとどまる。地域別では北海道、関西、中部が先行している。

黒字・赤字でみると大旅館ではともに40%台だが、中旅館と小旅館では黒字旅館が先行している。

・大旅館 黒字40.0% 赤字 45.5%

・中旅館 黒字36.4% 赤字 29.0%

・小旅館 黒字43.3% 赤字 16.7%

(ホテル)PayPalの導入は21.9%となっている。

(4) WeChat Pay の導入状況

WeChat Pay(微信支付/ウィーチャットペイ)は「中国版LINE」と呼ばれるWeChatに組み込まれた決済サービスであり、中国を中心に10億人のユーザーがいるとされる。

WeChat Payの導入状況は平均10.4%で大旅館がやや先行している。地域別をみると北海道と関西が先行し、中部が続く。外国人旅行客の多い四国や九州だが、ともに0%となっている。

また、赤字旅館ではあまり導入されておらず、黒字旅館が先行している。黒字の小旅館が積極的に導入している。

・大旅館 黒字13.3% 赤字 0.0%

・中旅館 黒字12.1% 赤字 3.2%

・小旅館 黒字20.0% 赤字 0.0%

(ホテル)WeChat Payの導入は9.4%となっている。

(5) 決済の割合

カード決済の割合は28.2%で、小旅館が最も高い。クーポン券が発行される旅行業からの送客が多い大旅館ではカード決済の割合は25.1%と比較的低い。地域別でみると中国、四国がやや低い。

(ホテル)決済の割合は41.8%と旅館を上回る。

表36 公衆無線 LAN の設置場所 (単位: %)

	全館	ロビー	客室	会議室	宴会場	その他
旅館	68.5	29.2	14.6	5.9	4.6	2.3
大旅館	51.2	41.9	32.6	9.3	0.0	2.3
中旅館	71.0	27.1	10.3	6.5	3.7	3.7
小旅館	75.4	24.6	10.1	2.9	8.7	0.0
北海道	73.7	26.3	5.3	0.0	0.0	5.3
東北	72.4	20.7	6.9	3.4	3.4	10.3
関東	66.7	33.3	16.7	20.8	8.3	0.0
北陸信越	72.5	25.0	7.5	2.5	2.5	0.0
中部	62.5	34.4	15.6	6.3	6.3	3.1
関西	72.5	27.5	17.5	5.0	5.0	0.0
中国	40.0	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0
四国	66.7	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0
九州	68.8	31.3	25.0	0.0	12.5	0.0
黒字旅館	75.0	23.0	11.8	5.3	3.9	2.6
赤字旅館	53.7	43.3	20.9	7.5	6.0	1.5
ホテル	79.3	20.7	13.8	10.3	3.4	0.0

表37 クレジットカード&電子決済 (単位: %)

	クレジットカード決済		PayPal	WeChat Pay	カード&電子決済の割合
		決済端末を導入	事前決済が可能	電子決済が可能	
旅館	94.8	96.3	33.3	10.4	28.2
大旅館	97.7	100.0	40.9	11.4	25.1
中旅館	96.4	95.3	34.2	10.8	26.5
小旅館	90.8	95.7	27.6	9.2	32.8
北海道	95.0	94.7	55.0	25.0	26.5
東北	96.8	96.7	29.0	3.2	26.7
関東	89.3	96.0	14.3	7.1	29.1
北陸信越	95.2	95.0	19.0	4.8	28.6
中部	94.1	96.9	41.2	14.7	29.4
関西	97.5	100.0	52.5	22.5	29.6
中国	90.0	88.9	10.0	0.0	24.8
四国	100.0	88.9	33.3	0.0	24.4
九州	94.1	100.0	35.3	0.0	29.0
黒字旅館	95.6	96.0	36.7	14.6	28.8
赤字旅館	93.2	97.1	26.0	1.4	26.9
ホテル	93.8	96.6	21.9	9.4	41.8

むすび

会員同士であつてもお互いの経営の内情を知り合うことは容易ではありません。この報告書は調査票をもとにした集計結果からなりますが、会員が業界の平均像を知り、自社の現状を再確認していただくことを意図しています。結果として、個々の会員が経営改善のための道筋を見い出せることを願っています。

ご協力頂いた旅館ホテルの各位に深く感謝し、全会員の益々の発展を祈念致しております。

平成30年度 営業状況等統計調査票

①

直近の事業年度の決算等にもとづいて記入し、
平成30年8月31日(金)までにご提出ください。

1

A. 業態と地域 (必須)

業態		1. 主として夕食・朝食付きで販売している	2. 主としてルームチャージのみで販売している
----	--	-----------------------	-------------------------

地域	③	以下より該当する地域を1から9の番号をお選び下さい。
----	---	----------------------------

- 1 北海道 …………… 北海道
 2 東北 …………… 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
 3 関東 …………… 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
 4 北陸信越 …………… 新潟県、富山県、石川県、長野県
 5 中部 …………… 福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
 6 関西 …………… 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
 7 中国 …………… 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
 8 四国 …………… 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
 9 九州 …………… 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

B. 客室数と面積 (必須)

	和室の数		和洋室の数		洋室の数		合 計	
客室数	4	室	5	室	6	室	7	室

建物延べ面積	8	m ²
--------	---	----------------

C. 宿泊人員、営業日数等

収容定員	9	人
年間営業日数	10	日
年間販売可能客室数	11	室
年間延べ宿泊人員	12	人
旅行業者経由の宿泊人員	13	人
ネット業者経由の宿泊人員	14	人
自社HPからの宿泊人員	15	人
宿泊人員のうち外国人	16	人
年間延べ日帰り食事利用人員	17	人
年間延べ利用客室数(宿泊のみ)	18	室

外国人の国籍			
中 国	19		人
韓 国	20		人
台 湾	21		人
香 港	22		人
タ イ	23		人
米 国	24		人
オーストラリア	25		人
その他	26		人

D. 標準宿泊料金(サ込み税別)

1. 閑散期に設定している宿泊料金	27		円	～	28		円
2. 繁忙期に設定している宿泊料金	29		円	～	30		円

裏面に続く

E-1. 損益計算書(消費税除く)

平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

科目		金額		摘要
宿泊	宿泊売上	31	千円	
	宿泊人員	32	人	
日帰り	日帰売上	33	千円	
	日帰人員	34	人	
客室	年間販売可能室	35	室	
	使用客室数	36	室	
	客室稼働率	37	%	
売上	宿泊売上	38	千円	
	飲物売上	39	千円	
	売店売上	40	千円	
	その他売上	41	千円	上記の3つの売上区分以外の売上を記載して下さい
総売上高		42	千円	
仕入	期首棚卸残高	43	千円	期首棚卸残高の総額を記載ください
	料理仕入	44	千円	料理材料仕入
	飲料仕入	45	千円	酒類、清涼飲料水などの仕入
	売店仕入	46	千円	売店商品仕入
	その他仕入	47	千円	上記の3つの仕入区分以外の仕入を記載して下さい
	期末棚卸残高	48	千円	期末棚卸残高の総額を記載ください
売上原価		49	千円	決算書の売上原価を記入してください
売上総利益		50	千円	決算書の売上総利益を記入してください
	人件費	51	千円	別途計算用シートを同封しております。
	営業費	52	千円	
	業務費	53	千円	
	管理費	54	千円	
	減価償却費	55	千円	
経費合計		56	千円	
営業利益		57	千円	決算書の営業利益を記入してください(損失の場合△印)
	受取利息・配当金	58	千円	預貯金の受取利息、株式の配当金等
	雑収入	59	千円	売上げに該当しない収入。現金過剰等。
	家賃収入	60	千円	貸し地貸し家の賃貸収入
営業外収益		61	千円	
	支払利息	62	千円	借入金の支払利息、手形割引料等
	雑損	63	千円	経費計上に該当しない支出。現金不足など。
営業外費用		64	千円	
経常利益		65	千円	決算書の経常利益を記入してください(損失の場合△印)

F. 貸借対照表

平成 年 月 日現在

※直近の決算書よりご記入下さい

借 方				貸 方			
科目	金 額			科目	金 額		
流動資産	66		千円	流動負債	70		千円
固定資産	67		千円	(うち短期借入金)	71		千円
繰延資産	68		千円	固定負債	72		千円
				(うち長期借入金)	73		千円
				純資産の部 (資本金・剰余金)	74		千円
資産の部合計	69		千円	負債・資本の合計	75		千円

G. 就業者

区分	項目	就業者数	
	常勤役員	76	人
	正社員	77	人
	パートタイマー	78	人

注1. 就業者数(正社員・常勤パートタイマー)は、各月末の就業者数の合計(12ヶ月分)を12で除した平均値をご記入下さい。

H. 従業員(正社員)の平均年齢は何歳ですか

男性	79	歳	女性	80	歳
----	----	---	----	----	---

裏面に続く

I. 次の設問についてもよろしくご協力願います。（該当する番号に「○」もしくは番号を右側の□(四角枠)にご記入ください） 4

Q1.サービス料について

1. サービス料(奉仕料)を設定している	2. 設定していない	81
(※予約段階でサ込み表示されていても、館内販売含め何らかの設定がある場合、設定しているにお答え下さい)		

Q2.インターネット対応の状況について

① HP(ホームページ)の開設状況はいかがですか。	82					
1. 自社専用HPがある(次の2. は含まない)	2. 自社HPはなく、OTA(オンライン・トラベル・エージェンシー)での販売だけしている					
3. 自社HPはない						
② HPの対応言語をお答えください。(複数回答)	83					
1. 日本語	2. 英語	3. 中国語(繁体字/台湾・香港向け)	4. 中国語(簡体字/大陸向け)	5. 韓国語	6. タイ語	7. 仏語
8. 独語	9. スペイン語	10. その他()				
③ HPから即時予約することが可能ですか。	84					
1. はい	2. いいえ					
④ 即時予約可能なHPがある場合、その対応言語に○をつけて下さい。	85					
1. 日本語のみ	2. 英語	3. 中国語(繁体字/台湾・香港向け)	4. 中国語(簡体字/大陸向け)	5. 韓国語	6. タイ語	7. 仏語
8. 独語	9. スペイン語	10. その他()				
⑤ スマホの対応のページがありますか。(複数回答)	86					
1. 日本語	2. 英語	3. 中国語(繁体字/台湾・香港向け)	4. 中国語(簡体字/大陸向け)	5. 韓国語	6. タイ語	7. 仏語
8. 独語	9. スペイン語	10. その他()				
⑥ スマホから即時予約することが可能ですか。	87					
1. はい	2. いいえ					
⑦ 即時予約可能なスマホページがある場合、その対応言語に○をつけて下さい。	88					
1. 日本語のみ	2. 英語	3. 中国語(繁体字/台湾・香港向け)	4. 中国語(簡体字/大陸向け)	5. 韓国語	6. タイ語	7. 仏語
8. 独語	9. スペイン語	10. その他()				
1. はい	2. いいえ					
⑧ サイトコントローラー(手間いらず、ねっぱん、TLリンカーン等)を導入していますか。	89					
1. はい	2. いいえ					
⑨ 無料公衆無線LAN(フリーWi-fi)を設置していますか。	90					
1. はい	2. いいえ					
⑩ (上記で「はい」の方のみ) 無料公衆無線LAN(フリーWi-fi)の設置場所はどちらですか。(複数回答)	91					
1. 全館	2. ロビー	3. 客室	4. 会議室	5. 宴会場	6. その他()	

Q3.外国人客の受け入れについて、近いと思われるものをお答え下さい

1. 積極的に受け入れたい	2. 高単価の外国人客のみ受け入れたい	3. 日本人観光客を優先する	92
4. 外国人客は受け入れたくない			

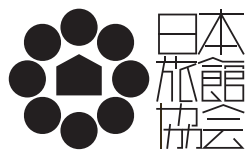
Q4.入浴施設

A. 露天風呂の有無(複数回答)	93		
1. 一般的な露天風呂	2. 客室露天風呂	3. 貸し切り露天風呂	4. 無
B. 温泉の有無	94		
1. 有	2. 無		

Q5.クレジットカード&電子決済対応の状況について

① クレジットカードによる決済は可能ですか	95			
1. 可	2. 不可			
② 決済処理にカード決済端末を導入していますか	96			
1. 導入している	2. 導入していない			
③ 【③の設問で1と答えた場合】 どのカード決済端末を使っていますか	97			
1. J-Maps	2. C-REX	3. JET-S	4. その他()	
④ PayPal(ペイパル)によるネット予約時の事前決済は可能ですか	98			
1. 可	2. 不可			
⑤ WeChatPay(ウィチャットペイ)による電子決済は可能ですか	99			
1. 可	2. 不可			
⑥ 総売上高に占めるクレジットカード&電子決済の割合はどれくらいですか				
	回答	100		%

ご協力ありがとうございました。



一般社団法人 **日本旅館協会**
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

平成31年1月
営業状況等統計調査

発行 一般社団法人 日本旅館協会
〒102-0093
東京都千代田区平河町 2-5-5
全国旅館会館2階
TEL : 03-5215-7337 FAX : 03-5215-7338

本書を許可無く複製する事は固く禁じます。許諾については当協会までご照会下さい。